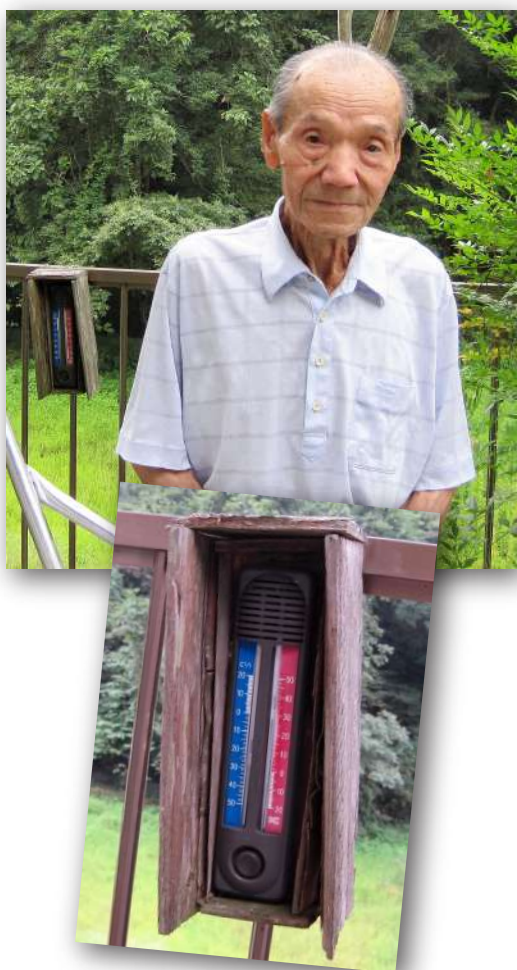


県北 どらくろあ

第6号 2016年9月1日（毎月1日発行）

県北群星伝④ 「二万日の記録者」

たなか とらいち
田中虎市 95歳（庄原市高茂町）



毎日こつこつと、気温の測定を続けている人がいる。最初は農業のためのデータを取るため。地球温暖化が話題になってからは、その影響を知りたいと測定を再開。記録した日数は、トータルで一万日をゆうに超えている。

農家の長男として生まれた田中虎市さんは、小学校を卒業すると躊躇なく農業の道に進んだ。知識欲旺盛で、東京農業大学の通信教育を受講する傍ら、自分の田畑を試験地

疎植&深水の方が稲が健全に生育して収量も多いということがわかった。

田中さんが暮らしている高茂町は標高が約三百メートル、この土地の正確な気温を調べたいと、昭和二十五年元旦から測定をスタート。気温計は地上一メートルの高さに設置、直射日光を浴びると誤差が生じるので、簡単な木のケースを作って収納。気温計は、二本のガラス棒温度計がそれぞれ最高気温と最低気温の箇所

なっていて、記録後にボタンを押してリセットする。田中さんの気温調査は、十年間でいったん終了。再開したのは平成九年からで、地球温暖化の影響が気になったからだ。常識や情報を鵜のみにしないで、自分でやれることは調べてみる、農業で培った人生訓である。

五年から三十四年までの平均気温と、平成十六年から十五年までの平均気温を比較すると、その結果は、少し意外なものだった。昭和二十五年から十年間の最高気温の平均は二〇・六度、最低気温の平均は七・〇度。すべての平均気温は一三・八度。平成十六年から十年間の最高気温の平均は二〇・一度、最低気温の平均は九・〇度。すべての平均気温は一四・六度。約五十年前に比べて、年間平均気温が〇・八度上昇していることがわかった。

しかし、最高気温は逆に、五十年前よりも〇・五度下がっている。問題は最低気温で、二〇度も上昇している。この日温格差の減少という結果を見て、わたし（記者）は人間の血圧を連想した。血圧には心臓の収縮期と拡張期があり、高い数値が収縮期、低い数値が拡張期。収縮期の数値ばかりが目されるが、より深刻なのは拡張期の数値が高い患者だ。服薬してもなかなか下がらない。長年の飽食や老化で動脈硬化が進行した血管……、化石燃料を浪費して環境破壊が続いている地球の現

平成二十六年五月に気温調査一万日を達成、それを記念して記録データの検証を行った。昭和二十

状が重なった。

日温格差の減少は、植物生理にも影響している。水稲においては籾の充実が不良となり、果実においては糖度が減少、花卉（かき）は色彩の冴えが悪くなる等々、田中さんは検証のレポートに書いている。

田中さんは、第二次世界大戦で砲兵として満州に駐留しているときに終戦、ソ連軍の侵攻で捕虜になった。二年間のシベリア抑留生活を題材とした体験記や小説を、「ひろしま備北文学」や「庄原文藝」で発表。農民文学界主催の「農民文学」にも、農民作家として多くの作品を寄稿している。

シベリアの収容所生活は過酷で、劣悪な食料や加重労働で戦友たちが次々と衰弱死。極寒の地の凍土は、遺体を埋める穴を掘ることも困難だった。「地獄」から生還した田中さんは、「これからの一生を土に殉じて生きてゆこう」と決意する。

しかし、日本の農家の現実は厳しい。田中さんも、出稼ぎをしなくては家族を養うことができなかったという。地球温暖化の対策は、遅々として進んでいない。それでも、いや、だからこそ、田中虎市さんは毎日、気温の測定を続けている。

図書館員ノート②

「鵜飼短歌顛末記」

「鵜飼に文学の香りをつけたいなあ」

中学生時代の恩師から言われたのは、今年初めのこと。

私が「三次鵜飼」に係わるきっかけとなったのが、そのK先生である。先生は、私が中学一年生時の担任である。かれこれ30年前のことだ。現在はNPOで子どもの学び支援や、江の川に係わる研究など幅広く活躍され、鵜飼文化の伝承にも力を注がれている。



昨年度『三次鵜飼の民俗技術』

が広島県無形文化財として指定された折も図書館の三次鵜飼講座で講師を務めていただいた。そしてその講座の聴講者の何気ない「白鵜に名まえはあるの？」という質問から、白い鵜の名まえを募集し、「白輝（しろき）」に決定した。

このようにいつのまにか、K先生のペースに乗せられどっぷりと「鵜飼」に係わることとなった。後に『鵜飼シンポジウム』の関係者、この人も先生の教え子だが、曰く、「あなたもまきこまれましたね」。先生には周囲の人間をひきつけ巻き込んでしまう何かがあるらしい……。ともかく今年度の目標は決まった。大量死ではからずも全国の注目を集めた鵜飼を、この機会にアピールすること。そして「文学の香り」をつけること。

短歌募集

幸い三次市は歌人中村憲吉の故郷だ。中村憲吉記念文芸館の館長

によると、憲吉が鵜飼船に乗った時の手記があるらしい。これだ！鵜飼を詠んだ短歌を全国に募集しよう！図書館の指定管理者である（株）暮らしサポートみよしの社長からも、協力すると快諾を得た。

6月から短歌の募集開始が決定。鵜飼シンポジウム開催12日。短歌の味わい方の講座開催18日。鵜飼バックヤードツアー25日。短歌募集締切、審査、表彰式……。もちろん図書館の業務は通常通り行い、アピールのためケーブルテレビへ出演もした。本当にめまぐるしく日々が過ぎていき、予定通りいかないかもと弱気になったことも数知れず。

しかし結果は、北海道から福岡まで全部門合計で332点もの応募があった。なかなか短歌が集まらず四苦八苦していたので、この結果を社長に報告した時は思わず握手をして喜び合った。

もうすぐ鵜飼短歌の仕上げとして、短歌集を上梓する。K先生も三次鵜飼への関心の高まりを喜んでくれるにちがいない。

三次市立図書館 K・M

ロウリングズ『子じか物語』

成長物語の魅力を知った

どんなきっかけでこの本を手にしたのかは記憶にありません。「子じか物語」のあらすじは知っていました。「シートンの動物記」のような動物物語として読んでみたかったと思います。かわいい子じかと仲良くする話のほうでした。だが、読後の感想は違ったものでした。

舞台はアメリカの南部、フロリダ半島の開拓地。隣家に行くのに歩いて1時間半もかかります。少年ジョディと両親の3人家族の暮らし。このバクスタ家は、男兄弟ばかりで荒っぽい隣家フォレスト家とは、あまり近しくつきあっていません。父親ペニイが人とつきあうよりも、自然や動物のほうが好きだったせいもあります。ペニイは自然をよく読み、狩猟が上手でした。

隣家フォレスト家とは喧嘩もしますが、いざというときの助け合いもします。アメリカの開拓民の気性をうかがわせました。

一日中よその人の顔を見ることもなく、3人だけで顔をつきあわせて、さぞかし窮屈だろうと思えますが、

そうではありません。少年ジョディは、3キロも離れた谷や小川に出かけるのが楽しみなのです。木の葉で

らえませぬ。さて、子じかが登場するのは、本を半分ぐらい読み進めてからでした。ある日、父親ペニイが毒蛇にかまれ、近くにいた雌鹿を撃つてその内臓で応急手当をします。雌鹿のそばに、乳をほしがる子じかがいたのです。

また読んでみたい本⑥

少年少女たちへ

音谷 健郎



【子じか物語 挿絵】

世界の古典文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の少年少女たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介していきます。

第6回目はロウリングズの『子じか物語』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を歴て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

水車を作り遊びます。家に戻ると次々と手伝いが待っています。

学校には遠くて行けません。ごく時々会う隣りフォレスト家の身体の弱い少年だけが友だちです。家族3人が食べるのがやっとなので、余分に食料を消費する動物を飼わせても

父親の命を救った雌鹿に免じて飼うことが許されます。少年ジョディの可愛がりようは、並ではありません。子じかと遊べるためには、家の手伝いも進んでするようにしました。少年が呼べば、子じかはどこからともなく現れます。少年にとって、

毎日顔を合わせるただ1人の友だちです。

1年が過ぎ、子じかの背中のみだらが消えるころ、子じかのいたずらは度を超えていきます。高い囲いを乗り越えて、1年分の食料のトウモロコシの芽を食い荒らします。こうして、少年ジョディと子じかのお別れの時が来ます。少年の悩む姿が描かれていて共感しました。家出をするが立ち直った少年は、もう昔の少年ではありませんでした。成長とは、こういうことかと実感したものです。

この小説は、実際にフロリダ半島に住んで果樹園を営んだ女性作家が1938年に発表し、大きな文学賞のピュリッツア文学賞を受けています。原題は、「子じか物語」ではなく、「イヤリング」です。日本語に訳せば、「1年っ子」という感じですが。貧しいなかで一生懸命に生きるアメリカ開拓農民の1年間を描いた大人の物語だったのです。

私の感動は、少年ジョディが子じかを可愛がるばかりではなく経験を経験する姿に、アメリカンフロンティア精神の一面をのぞくことが出来たからだと思います。

残暑の日差しを逃れるように、亜里沙はお堂の庇をくぐった。板張りの縁側に腰をおろして、周囲に人がいないことを確かめてから、足を投げ出して大きく伸びをする。

（何をやってんだろうな）

道路の向こう側では、黄金色の稲穂の絨毯が風に揺れている。その上を、赤とんぼが群れをなして飛んでいる。横浜のマンションで生まれた育った亜里沙には、旅行雑誌のグラビアでも見ているような光景だった。煙草が吸いたいと思っただが、コンビニがあるような場所ではなかった。

目の前に、ニユツとばかりに皿が突き出された。のけぞるようにして見上げると、雄太の母親が笑っている。亜里沙はあわてて、膝をそろえて姿勢を正した。

「隣に坐ってもいい？」

逃げ出した気持を抑えて、亜里沙は頷くしかなかった。

「よかったら食べてちょうだい。うちの漬物、けっこう評判いいのよ」

皿を手渡された。胡瓜や大根、人参の糠漬けに瓜の粕漬け、おいしそうな彩（いろどり）だ。

隣に坐った雄太の母親が、健康サングラスを脱いで、裸足の両足を投げ

出した。気持ち良さそうだ。亜里沙は、パンプスを履いた両足の靴擦れを意識した。

「食べて、食べて」

催促されて、亜里沙は爪楊枝を手にした。胡瓜の糠漬けを選んで、口に運ぶ。パリパリという音が口の中に響いて、適度な塩気が舌に滲みだした。次は大根、今度は瓜の粕漬けと、体

記した額がかけてある。

「美津代さんは粟屋小町と呼ばれるほどきれいな人だったらしいわ。信秋という若侍と恋中だったんだけど、美津代さんを好きになったオジャマ虫が出てきてね。江戸時代にも、ストーカーみたいな男はいんだね。そいつが仲間と一緒に信秋を闇討ちしようとして、返り討ちにあったの

「信秋はどっかの山に逃げ込んだんだけど、最後は追っ手に討たれたらしいわ。美津代さんのことは何も書かれていない……」

「美津代さん、かわいそうですね」

「きつとどこかで逞しく生きてるわよ。女はしたたかなんだから」

まるで友達のことでも話しているような口調だった。

「で、何カ月なの？」

唐突に訊かれた。亜里沙は、アツとばかりに三津代の顔を見た。亜里沙の動揺した様子に、三津代が小さく頷いた。

「やっぱり、そうだったのね」

「三カ月になります」

観念したように告白した。

「当然、雄太の子じゃないわよね」

お見通しだった。亜里沙の目に涙が溢れだした。

「子供のことは、雄太は知ってるの？」

かぶりを振った。嗚咽をこらえながら、祖母の病状が思わしくないので、祖母を安心させるために婚約者の役を演じてくれないかと頼まれたことを白状した。

「雄太はおばあちゃん子だったからね。辛いお芝居をさせちゃったわね。それで、東京に帰ったらどうする

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

「六地藏堂」

あきふゆひこ

亜木冬彦

現代御伽草子⑥

が欲してしまふ。苦手な人参もおいしく食べられた。

「わたしの名前は三津代というの」

亜里沙は、郵便受けのネームプレートに書かれた名前を思い出した。

「そこに書いてある物語のミツヨさんと同じ。こちらの方は美しいという漢字だけだね」

背後の壁に、このお堂のいわれを



の？」

言葉に詰まった。それでも、子供
の父親は劇団の先輩俳優で、彼は妻
子持ちなので中絶を迫られているこ
とを、ぼつりぼつりと話していた。

「あなたはわたしによく似ている」

思いがけない言葉だった。

「あたしの方は、一緒に暮らしてい
た男が浮気したんで、ぶん殴って家
を出てきたんだけどね。外面ばかり
気にして、中身が空っぽの男だった。
ハラボテで宿無しになったあたしを
拾ってくれたのが浩ちゃんだった
の。小学校の同級生だったのよ」

雄太の父親は、浩一という名前
だった。

「じゃあ、雄太さんは……」

「前の奥さんの子。あたしは流産し
ちゃって……」

寂しそうな顔だった。

「雄太の方はあなたにゾッコンだね。
父親に似て、わかりやすい性格だか
ら」

亜里沙が苦笑した。雄太の気持ち
はわかっていた。はつきり告白して
くれていたらと今でも思う。舞台美
術担当、客席から見えない部分まで
きっちり仕上げないと気のすまない
性格で、そのことでボス（劇団の主
催者）によくからかわれていた。

「あなたの方もまんざらではないよ
うな気がするんだけど、あれは女優
さんの演技かな？」

「ずばりと切り込まれた。答えられ
なかった。今回の里帰りの旅行で、
雄太の気真面目さや優しさが胸に沁
みた。

（もう遅い。わたしにはそんな資格
はない……）

「その漬物、本当においしいでしょ」

三津代に言われて素直に頷いた。

「お義母さんに厳しく仕込まれたの。
山中家先祖伝来の味なの。昔は広島
藩の藩士だったという武家の家柄な

のよ」

誇らしそうに言った。

「この漬物の作り方、覚えてみな
い？」

亜里沙はしばらく唾然としていた
が、その意味を理解して顔を強張ら
せた。

「雄太は大丈夫。浩ちゃんも許して
くれる。男なんて単純だからね。あ
たしはもちろん、大歓迎！」

「にっこり笑った顔が、急に真顔に
なった。」

「恋愛は遊びのようなもの。でも、
家族は違う。赤の他人だった男と女
が家族になるんだ。お互い、それな
りの覚悟がいる。いいね、雄太を泣
かせるようなことをしたら、母親の
あたしが許さない」

夜叉の顔で言われて、亜里沙は無
意識に、何度も頷いていた。

※〔六地藏堂〕所在地は三次市粟屋町上
村下。お堂には六体の地藏が祀ってあ
り、今から四百年以上前の慶長四年（一
五九九年）の出来事と伝わる、美しい
娘と若侍の悲しい物語が語り継がれて
いる。お堂は近年、道路拡張と圃場（ほ
じょう）農産物を育てる場所）の整備
で現地に移築された。（三次のお堂群
のウェブマップ）参照

まちの古本屋さん
どろ書房

古書探索の旅に、お立ち寄りください。

野菜の店頭無人販売はじめました!
新鮮野菜がたくさん入って1袋百円。

・無料本、百円本、50円本などのコーナー。
無料の漫画ルームもあります。

●庄原市中本町2-1-10 ●定休日：毎週火曜日 / 第1・3月曜日
●営業時間：9:30~19:00 ●TEL:090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

<広告料1回5,000円 半年間20,000円 1年間35,000円>



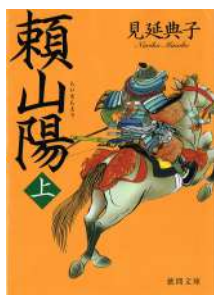
どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「頼山陽」

見延典子 著 徳間文庫

幕末の尊王思想に多大な影響を与えた歴史書「日本外史」。作者の頼山陽は、広島竹原の出身だ。「都に出て文筆家として名を成す」という大望を抱いて出奔、しかし脱藩に失敗して座敷牢に幽閉され、廃嫡となる。家門断絶の危険も顧みず、身重の妻をも捨て去る放蕩息子。

好色家で見栄坊で、自分の気に入ったものはどんな手段を使っても手に入れるというエゴイストだが、目的に向かって一途なこの大天才は、周囲の人から敬愛される人物でもある。頼山陽の波乱万丈の人生に登場する人物も多士済々でとても魅力的。NHKさん、大河ドラマの原作にどうですか？



「ゴミにまみれて」

坂本信一 著 径書房

副題が「清掃作業員青春苦悩篇」、映画人の夢破れて故郷で清掃作業員になった青年の日常が詳細に書かれている。役所内でもゴミ屋と蔑まれて、劣悪な環境で鬱屈した感情を抱えながらの毎日。真面目な者ほど損をする「お役所仕事」の実態や、民間業者への委託問題、間違いだらけのリサイクルブームの矛盾点など、当事者の切実な言葉が綴られている。



ときに客観性を欠いた感情的な文章も目につくが、虚飾のない叫びはリアルで、読者の心にビンビン響いてくる。

おそらく、古本屋をやっていないと出会ったことのない本。古本屋のおやじになって良かったと思える本なのです。

「ましろのおと」

羅川真里茂 著 講談社コミックス

不世出の津軽三味線奏者を祖父に持つ澤村雪（せつ）は、師でもあった祖父を亡くして、自分の音を探す旅に出る。スポ根ドラマのような展開だが、他の登場人物のサブストーリーを含めて、盛り上げ方が実にうまい。イケメンの高校生である雪の寡黙でコテコテの津軽弁が、ミスマッチで良い味を出している。とりわけ女性たちのキャラが個性豊かなのは、作者が女性だからだろうか。骨太でジャジーな津軽三味線の音の音が頭の中で響いている。



月刊少年マガジンに連載中で現在、15巻まで刊行されている。今わたしが一番、新刊本を待ち望んでいる漫画。そう、古本になるのを待ってられないのです。

《サンプル広告》

土井漢方薬局(平成 27 年 12 月オープン)

あなたにあった漢方薬をお作りします。また、処方箋調剤も受け付けております。足腰の悪い方にはご自宅まで配達もしておりますので、ぜひご利用ください。

東洋医学と西洋医学を専門に学んだ鍼灸師免許をもつ薬剤師が地域の皆様の健康を守り信頼されるかかりつけ薬局として誠実にご相談に応じます。

▶ 営業時間：9時～18時まで

▶ 電話：0824-55-6461

▶ 定休日：日曜／祝日

▶ 場所：三次市南畑敷町38-4

※お車でご来店の方、「カメラのサエダ」「ムラタケ」を目印にお入りください。

どらくる俳壇

満月やオリンピックの金メダル 近藤 昌平

まなかひに栗の花見て土鈴作る 原博己

秋簾人それぞれの暮らし向き 片岡正人

雨恋し里芋の葉も枯れにけり 隆愚

南無観世音われも月下の石ころ 赤川冬人

投稿&寄稿

「かま焚き」 富久光

かま焚きはきびしい闘いだと知りました
烈しく渦巻いてる炎を見たのです

加熱した白い煙筒が大理石の柱のように
くっきりとたっています

まばらな星座に盛んに火の粉が
飛び散りました

私は夢中で薪をくべていました
炎はうねりをあげて窯の中へ吸いこまれ
ています

しばらく荒仕事をしなかった手に
そばりが突き刺さりちかちか痛みました

美しいものを作りだすためには
野性の炎にならねばなりません

夜を徹して薪を焚きつがねばなりません

陶工は還拙といいました

阿武隈岳の光太郎を連想しました
住家より窯を大切にしていました

薪を充分にくべたあと
かまどの前に敷いた古むしろ 座って
炎を見つめていました

中天にかかった月の光りに照らされ
陶工の丸い眼鏡の底で

鋭く眼が輝いていました
身体の中を何か力強いものが流れ
はじめていました

炎はいつそう激しくかまどの中へ
吸い込まれてゆきます

まばらな星座に向って

夜を徹して火の粉が飛んでいました

※投句を歓迎します。

どら書房委託販売コーナー

★「天馬書林」

新書の教養書と戦争関連本、ノンフィクションが充実。

★「サワちゃん文庫」

中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

各専用棚で好評販売中!

今月のどらさん

この絵をブックカバーにしています。

絵・風太



「ぶんまわし」 近藤 昌平

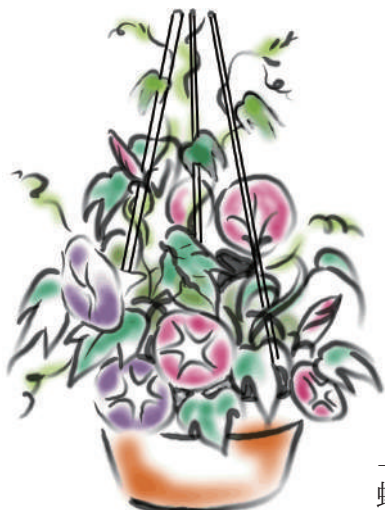
医大の眼科の若い先生がコンパス
を使ってカルテに円を描いている。
円は私の眼である。たまたま某紙を
読んでいて、英一蝶（はなぶさいつ
ちょう）という江戸時代の画家が、
晩年は手がふるえるようになり、月
を描く際、ぶんまわしを使ったとい
う一文を目にした。ぶんまわしとは、
コンパスのことである。

もうずいぶんと前のことだが、七
十八歳で亡くなった父が、コンパス
のことを「ぶんまわし」と言ってい
たことを思いだした。

若い先生に「ぶんまわし」を知っ
ているかと尋ねてみたが、ご存じな
かった。念のために広辞苑で「ぶん
まわし」を調べてみると、「円を描
くの用いる具」とあった。

おのずからいぎよふ月のぶんまわし

一蝶



《情報＆原稿を募集します!!》

- 仲間募集
 - 教室＆講座案内
 - イベント情報
 - あなたの大切な本の紹介
 - ボランティア・ライター（現地記者）募集！
- どらくろあで地元の記事を書いてみませんか？

※応募先はどら書房・赤川まで。掲載は無料です。

『庄原メイプルラジオ』

毎週日曜日
13時～放送中!!

庄原で過ごすパーソナリティ達の
何気ない日常の話と地域の情報や
ゲストを招いて放送する地域密着
エンタメ放送!!

YouTube

和家チャンネル：



陶芸 教室

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

自作のお茶碗で
お茶を飲んで
みませんか？

- 金・土・日曜日開催
- 場所：県立広島大学前簡易郵便局に併設
- 費用：一回500円＋材料費
- 連絡先：0824(74)0686 洲沢(スザワ)

— 参加者募集 —

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

みよし運動公園の屋内&屋外コートで、硬式テニスの例会を行っています。

- ・ 火曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・ 水曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・ 土曜日 (12:00 ~ 14:00)

入会金、会費等は必要なく、コート利用料だけを当日の参加者で分割負担。現在、50人をこえる会員がいて、ご自分のペースでエンジョイされています。例会だけではなく定期的にMTECの大会や他の地域のテニスクラブとの交流会を開催。興味のある方は、一度、例会にご参加ください。見学も歓迎します。

連絡先：中川 (☎080-5610-2376)

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載しているので、
ダウンロードしてお楽しみいただけます。

<http://shobara.wix.com/dorakuroa>



発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail:touzin@sannet.ne.jp
年間購読料：2,000円(郵送費込)

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会

編集後記

◇「残暑で喘いでいます
が、「群星伝」に登場
していたいただいた田中虎
市さんのデータでは、
「今年较去年よりも涼
しい」らしいのです。
去年の夏は今年以上に
猛烈に暑かったのです
が、すっかり忘れてしまっ
ています。

◇「図書館員ノート」の連載、
楽しみにしていると、三次在
住の人から声をかけていた
きました。図書館をよく利用
されている方ようで、それ
だけ図書館や職員の方が身
近存在なのでしょうね。

◇「現代御伽草子」は、先月
号の「群星伝」の中で紹介
した「どうさん」の中から、興
味を引かれたエピソードのあ
る辻堂を題材にさせてもら
いました。

九日市だより

天正年間(440年前)に物々交換で始まった市(いち)が、昭和年代の戦争で途絶えましたが、空き店舗を活用した市街地活性化ボランティア活動で、2001年に復活して16年目を迎えました。

ひょうばらくんちいち 「庄原九日市」

主催：九日市愛好会

開催日時：毎月9日 9時～13時まで

場所：広島県庄原市中本町 まちなか広場付近(ノボリが目印)

駐車場：近くに市の駐車場・市民会館の駐車場があります。

《出店市》

- 食の市** ▶珍しい農産物と海産物 ▶餅、漬物など多種類の手作り開発加工食品
▶手作りの菓子、ケーキ ▶コーヒーショップ ▶キムチ ▶焼きそば
▶焼き芋 ▶地域グループの店 ▶庄原産の醤油・味噌 ▶その他
- 手仕事市** ▶和洋服リフォームの手芸品 ▶木材加工手芸品 ▶ガラス玉
▶陶芸品 ▶手描き友禅 ▶創作手芸品 ▶その他
- 自由市** ▶骨董品 ▶リサイクル品 ▶花類 ▶刃物(研ぎ) ▶タオル ▶靴
▶衣類(新品、時代物) ▶下駄 ▶エステ ▶住宅生活関連 ▶似顔絵
▶学校児童生徒の作品 ▶イベント情報 ▶不動産情報 ▶姓名判断
▶その他

出店者 地元商店・近隣の有志・中国地方全域・愛媛県から毎月50店舗前後
申し込みは毎月20日までに事務局へ

詳しくは ホームページ <http://www.kunchi-ichi.jp>

問い合わせ窓口 九日市愛好会事務局

〒727-0013 広島県庄原市西本町 2-1-10 楽笑座内
TEL. & FAX 0824-72-8285

感謝と笑顔・人のぬくもりが伝わる「くんちいち」

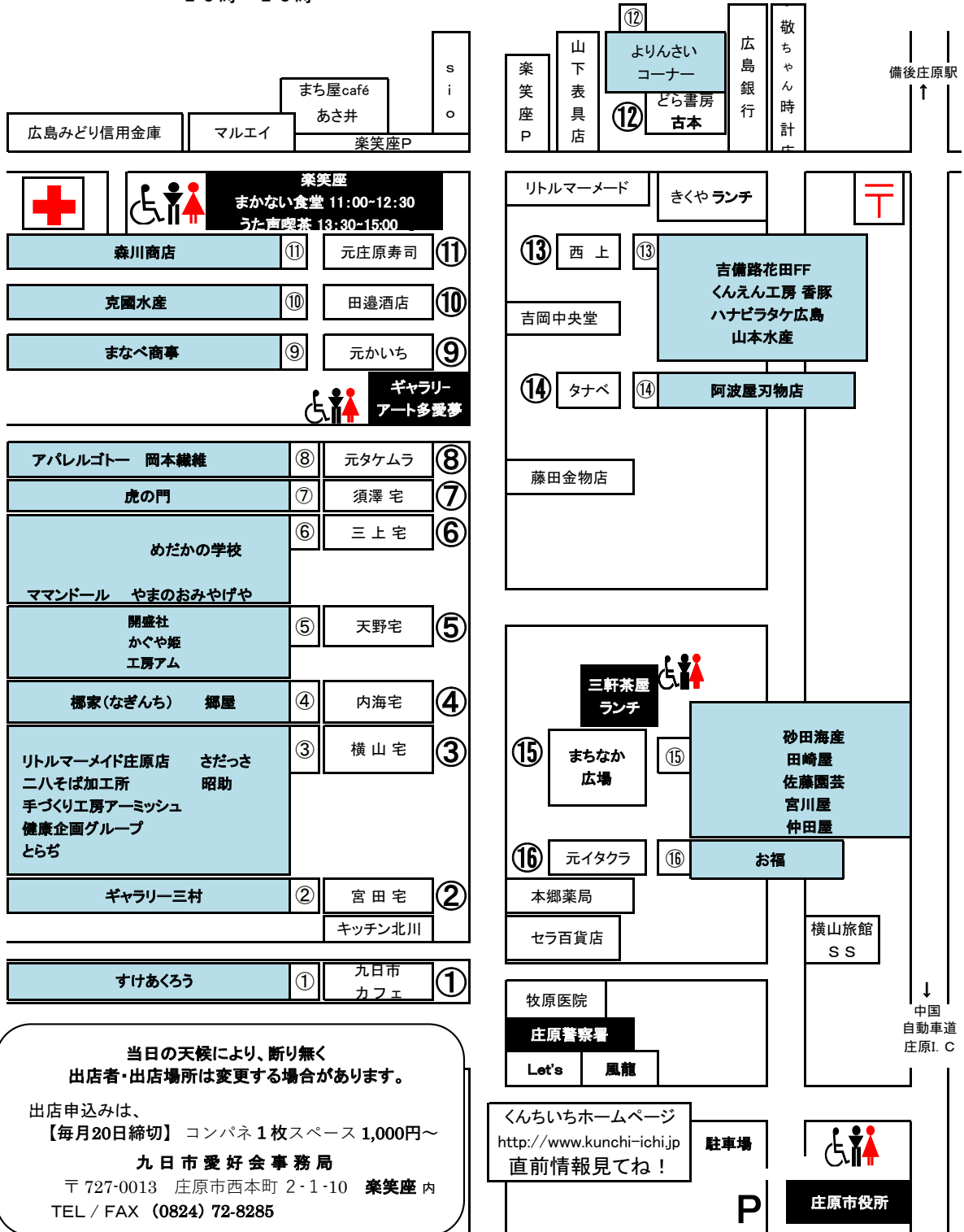
第188回 **しょうばら** くんちい **九日市**
 平成28年 **9月9日 (金)** 9:00~13:00

トピックス

★風龍さん・・・九日市スペシャル！ 餃子200円！

★市民ギャラリー「アート多愛夢」では
 ちくちくはうす玉手箱 (着物 リメイク)
 とき 9月8日 (木) ~10 (土)
 10時~16時

★どら書房さん・・・営業時間 9:30~19:00
 毎週火曜日と第1. 3月曜日はお休みです



当日の天候により、断り無く
 出店者・出店場所は変更する場合があります。

出店申込みは、
 【毎月20日締切】 コンパネ 1枚スペース 1,000円～

九日市愛好会事務局
 〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 楽笑座内
 TEL / FAX (0824) 72-8285

くんちいちホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>
 直前情報見てね！

駐車場 P
 庄原市役所